

【平成 25 年 11 月 29 日・平成 26 年 12 月 13 日】1 部労働経済論公開授業

①これでいいのか、学生バイト!! 大学生のアルバイトを考える

②若者と労働組合——ブラック企業に立ち向かうために

川村雅則准教授が担当の「労働経済論」で上記の2つの公開授業を開催した。大学生のキャンパスライフのうち少なからぬ部分をアルバイト生活が占めている。近年は学費負担の捻出が厳しくなっているという事情もあり、学生がバイトに時間をさく傾向は強まっているように思われる。

問題は、アルバイト生活におけるワークルールの軽視だ。すなわち、「定番」の(?)不払い労働にはじまり、仕事上のミスへのペナルティ、商品の買い取り・ノルマ、急な呼び出し・シフトの変更、長時間労働・残業、パワハラ・セクハラなどなどである(2013年川村ゼミ調べ)。

こうした状況の多くが法律違反であることを知らずに働いている点も問題だが、違法であると仮に知ったとしても、その是正を使用者側に求めるのはなかなか容易なことではない。そこで、「団結剣」提唱者であり、長年数多くの労働相談にのって労働組合づくりを支援してきた鈴木さんの助言を得ながら、学生バイトにおける問題状況の解決方法を考え、同時に、労働相談からみえる今日の職場状況や就職時に留意すべきことなどを学んだ。[川村]



川村ゼミ生による学生報告も行われた公開授業 [11.29]

【平成 25 年 11 月 27 日】開発研究所・経済学会主催特別講演会

「映画と地域づくり」●崔 洋一氏 [映画監督]

人生において、人は誰でも一つや二つの忘れられない映画を見た記憶があるだろう。自然を題材にしたもの、歴史や文化、あるいは、人の生き様を題材としたもの、対象はそれぞれであろう。たとえば、幼いころの私にとって、家族で見たディズニーの「砂漠は生きている」という砂漠に生息する動物たちの生態を描いた映画はあまりに鮮烈で、しばらくは脳裏から離れなかった。今回の講演で、崔監督は映画の影響力をこれとは全く別な観点から指摘していた。すなわち、人間が本来もつ自己表現要求という問題である。われわれは、とすると日常生活、規則やルールに縛られた生活の中で居心地良く生活できていると思っているが、実は逆に、時にはそのような枠組みを離れたいという要求を潜在的には持っており、それを解き放つことが想像力につながると監督は言う。これは青年だけではなく、お年寄りにも言える。旧穂別町のお年寄りが中心になって映画作りに取り組んだのは、まさにその具体化であったのである。この映画作りに参加するスタッフもキャストも実に生き生きとしており、映画作りが生きがい作り、地域づくりとなっている好例である。

[小坂]



崔洋一氏

From a Distance 1

「或る原点について」

●栗林 広明 [経済学科教授]



サハリン 韓国系家庭の食卓 写真: I.SASAKI

基礎ゼミの時間に、リーマン・ショックについて知っているか尋ねたら、クラスの半数以上から知らないという答えが返ってきて、こちらがショックを受けた。リーマン・ショックに至る様々な要因・過程は、同じ過ちを繰り返さないために常に振り返るべき一つの原点だろう。そのリーマン・ショックに伴う金融危機に対応したFRB議長、B・バーナンキは、大恐慌(1929年～)時の金融政策の失敗を踏まえて、今般の危機に対する対策を講じたと伝えられる。バーナンキにとっては大恐慌が問題を考えるための原点だったと言える。

さて私にとって物事を考えるときの原点は、わが国が1931年から1945年まで足かけ十五年にわたって行った戦争である。その戦争を強く意識するようになったのには幾つかのきっかけがある。祖母から米国の爆撃機による空襲の話聞いていたこともその一つである。また私が大学一年生のときに感動しながら講義を聞いた歴史学の先生が、そ

の年度限りで定年退官だったために、最後に「教養部便り」にさりげなく文章を寄せていたのだが、それを読んだことも一つのきっかけであった。その先生はいわゆる学徒出陣で徴兵されたのだが、入営直前に旧制高校時代の友人二人と会い、最後の別れをした。そして実際そのお二人は戦死し、先生自身は南方の戦地でマラリアにかかり却って命を落とさずにすんだとのことであった(マラリアは命にかかわる感染症)。そのようにして、自分と変わらない二十代前半の若者が本当に様々なことを断念して戦地に向かったことについてあれこれと考えざるを得なかった。こうしてそれ以来、政党が解体され、翼賛体制が敷かれる中、戦争に対する疑問すら口に出せなくなっていった当時のわが国の重苦しさ、日本が払った本当に多くの犠牲が、しかし結局のところ侵略と植民地権益の確保のためであったことの空しさ、等々(スペースが足りない)を肝に銘じておきたいと思うようになったのである。